

芸術

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
芸術	書道 I	2	1年次・A群	選択必修履修
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
書道 I（教育出版）		筆・筆巻き・作品ファイル		1年次選択必修履修科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
書の表現の方法や形式、多様性について幅広く理解し、書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の幅広い活動に取り組む態度を育てる。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、多様性について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにしている。	書の幅広い活動に取り組み、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

2 学習計画と観点別評価項目

学年	学期	学習内容（単元・項目）	月	学習のねらい	評価の観点	
学 習 の 年 間 計 画	1 学 期	1 書写から書道へ	4	・書道 I についての説明を聞き、学習内容を理解する。 ・用具や用材、執筆法、用筆法を理解する。 ・臨書の種類を知り、その意義を確認する。	1 2	
			5	・楷書の基本的な技法を習得する。 ・唐の四大家の作品の比較を通してそれぞれの美を感じ得る。 ・九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の比較を通してそれぞれの特徴と書法を理解する。 ・雁塔聖教序と顔氏家廟碑の比較を通してそれぞれの特徴と書法を理解する。 ・牛橛造像記と鄭義下碑の比較を通してそれぞれの特徴と書法を理解する。	1 2 3	
		2 学 期	3 篆書(小篆)の特徴	9	・篆書の特徴を理解する。 ・小篆の筆使いの特徴を理解する。	1 2
				10	・篆刻の歴史を知り、そのよさや美しさを感じ、制作する印を工夫する。	1 2 3
	3 学 期	漢字	4 楷書の学習	11	・行書の基本的な技法を習得する。 ・行書の表現の多様性に触れ、行書の成立について、正しく理解する。 ・中国の影響を受けた日本の書を理解する。	1 2 3
				12		
		漢字	5 行書の学習	1	・仮名の成立過程、及び仮名の種類について理解する。	1 2 3
				2	・いろは歌について、理解する。	
	仮名	6 仮名の書	3	・変体仮名の効用や連綿による流動美を習得する。 ・蓬莱切を通して日本の伝統的な書の美を味わう。		

令和5年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度	
学習評価	規 準	<ul style="list-style-type: none"> ○書の表現の方法や形式、多様性について幅広く理解しているか。 ○書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫しているか。 ○作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書の幅広い活動に取り組み、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしているか。
	手 段	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の様子 ・自己評価表 ・作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の様子 ・自己評価表 ・作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の様子 ・自己評価表 ・作品
単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		単元末や学期末ごとに評価を総括し、年次末に、単元末と学期末の総括を行い評価する。		
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・定期考査は行わないので、集中し授業に参加しましょう。 ・用具や用材、書道教室は、みんなで共用しています。一人一人がマナーを守って、気持ちよく使用できるよう心掛けましょう。 ・筆、半紙、墨などが必要なため、教材費として3500円程度を徴収します。 			